



# ホテルますの井 (豊後大野市)

## 温泉なくても客どっと

# スポーツツーリズム先駆け



スポーツツーリズムに力を入れるホテルますの井。大学運動部の合宿などを多く受け入れている

合宿誘致の先頭に立つのは5代目の角田英之社長(56)だ。温泉地として知名度が高い大分県の中で温泉という売りがなく、過疎高齢化が進む地域に、どうやって客に来てもらうか。

温泉資源がなくても、お客さんは呼び込める。豊後大野市三重町に、年間延べ約8千人の団体客が訪れる宿泊施設がある。1959年創業のホテルますの井だ。県内で、いち早くスポーツツーリズムに注目。市内に野球場などの運動施設が多いことをPRし、大都市圏にある大学の運動部などの合宿を誘致。他の宿泊施設や飲食店とも連携し、地域全体が潤う取り組みを引っ張っている。



角田英之社長

戦。「合宿や練習の機会が多い大学生ならニーズがある。都会は施設が少なく利用料金も高い」とみて、フリー航路がある

関西や福岡を中心に売り込みを重ねた。ホテルでは運動施設の予約から送迎、弁当の手配まであらゆる裏方業務を担い、学生らが練習に集中できる環境を提供した。原尻の滝(同市)など地域の名所に案内するといった観光面のサービスも充実させ、



## 地域と連携、合宿誘致



豊後大野市三重町のスポーツ施設で練習に励む関西の大学野球部。宿泊、トレーニング、自然観光などを組み合わせたスポーツツーリズムが地域に活気を生んでいる

団体のリピーターが少しずつ増えていった。地元では当初、「市有施設をなぜ県外の団体が使うのか」と反発もあった。他の宿泊施設と連携して団体客を受け入れ、食事は弁当店を紹介するなど、恩恵を地域全体で分かち合うように努めた結果、協力の輪が拡大。今ではスポーツツーリズムは市を挙げた活動になっている。

「竹田なら温泉もあるし運動施設も多い。一帯の魅力をさらに発信し、九州一のスポーツエリアにしたい」。思い描く地域の将来像を実現するため、角田社長は着々と手を打っている。(吉良政宣)

新たなハード整備も進み、23年には全天候型の運動場が完成。地元の少年スポーツチームなどが主催する大会も増えている。長期休暇の合宿シーズンだけで



〔問①〕角田社長がスポーツツーリズムに挑戦する上で、「大学生にニーズがある」と考えた理由は何でしょうか。2つ答えましょう。

(理由1)

(理由2)

---

〔問②〕当初、地元からの反発に対して、恩恵を地域全体で分かち合うように努めた結果、どのような効果がありましたか。

---

〔問③〕あなたの住む地域で磨けば観光資源となりそうなものはありますか。考えてみましょう。また、その資源をどのように活用すれば良いかも一緒に考えてみましょう。